



神代農場社会参加活動
平成28年6月5日

調布 狛江 保護司会だより

NO.37

発行責任者

調布狛江保護司会
会長 鴨志田 守久



着任の御挨拶

東京保護観察所立川支部長

村木 康弘

本年四月一日付けで東京保護観察所立川支部長を拝命いたしました。

立川支部での勤務は初めてとなりますが、ここ多摩の地は、私が生まれ育った故郷であり、東京・多摩の安全・安心のために日夜、御尽力をいただいている更生保護関係者の皆様、関係機関・団体の皆様への感謝を胸に、改めて一緒に仕事をさせていただく幸せを感じている次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、近年、再犯・再非行の防止が安全・安心な社会の構築に不可欠であるとして、政府一丸となって様々な施策が打ち出されています。

更生保護においても、平成二十年に基本法である更生保護法が施行されるとともに各種制度の充実が進められ、昨年度は社会貢献活動が本格的に実施され、また、本年六月には刑の一部の執行猶予制度も始まったところです。

こうした動きは、再犯・再非行の防止に向けた更生保護に対する社会の期待の表れであるとともに、更生保護に課せられた責任もこれまで以上に重くなっていることが感じられ、より一層身が引き締まる思いがいたします。

保護観察所としては、引き続き保護司の皆様の御理解と御協力を得て、ともに社会の期待に応え、また、重責を果たすことができるよう努めてまいります。

調布・狛江地区では、更生保護の諸活動を活発に実施していただいております。当職も六月五日の神代農場における社会参加活動に参加させていただきました。そこでは保護司の皆様に更生保護女性会の皆様も加わり、調布・狛江地区の更生保護関係者が一丸となって、少年たちと熱心な活動をされていきました。こうした地域に根ざした活動が、更生保護に対する地域社会の理解につながっていくものと確信いたしました。今後とも更生保護に対する皆様の更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

調布・狛江地区保護司会 設立二十周年を迎えて



土屋 邦子

平成二十八年四月に二十周年を迎えた当地区保護司会は、当初、北多摩南地区として府中市、調布市、狛江市三分区で構成されていた。平成八年、府中分区の独立にともない調布、狛江の二分区でスタートした。

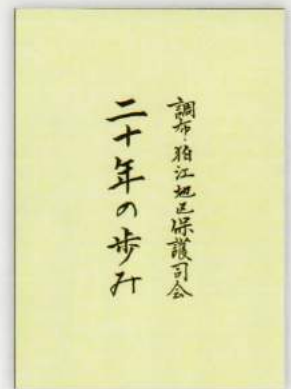
それまでは、地区としての活動は殆ど実施されていなかったが、平成九年に深大寺社会参加活動を実施、以後、神代農場社会参加活動、中学生サッカー教室と二分区が一体となって地区としての活動がめざましく発展し、現在に至っている。

これらの活動が評価され、平成十七年に瀬戸山賞を受賞した。平成二十三年十一月、都の更生保護事業関係者顕彰式典の当番地区として日頃の活動で培った行動力とチームワークで保護司会、更生保護女性会が八十余名参加して式典を盛り上げたことは記憶に新しい。

二十年の活動を振り返り今後の活動の礎となるべき記念誌の発行が実現した。「これから保護司になる方の指針になる」「手作り風で個人的」との感想をいただいた。祝賀会には、多数の来賓の皆様をお迎えして、旧交を温める楽しい集いになった。

これからの当地区の新しい歩みに今回の記念誌が指針になれば幸いである。

調布・狛江地区保護司会設立20



20周年記念誌

表紙題字 深大寺 張堂完俊氏 書

20周年記念式典 平成28年4月22日 クレストンホテル



平成二十八年度 神代農場 社会参加活動

地域活動部 辻 みゆき

去る六月五日、中止が危ぶまれる本降り雨、長靴を履いて自宅を出ました。徐々に小雨になり小雨決行。役割分担をして作業を開始。

私はニジマスの調理担当。まだピンピン跳ねる魚に「ごめんね！」と言いながら、わたを取り除いて串に刺す。チョット勇気のいる作業でした。魚捕獲係の少年達は、上手に網で掬って大漁。昼食会場係の少年達は会場設営を進め、魚焼係の少年達は焼き加減を見ながら焼くなど、各自自分の役割を果たしておりました。

恒例の昼食カツカレーは更女の方々が前日より愛情込めて仕込んだ評判の一品です。サラダとお新香には断面が☆と♥形のキュウリが入っており、少年たちもハート形に笑みを浮かべ微笑ましい光景でした。カレーは二杯目も完食でした。



朝の雨が嘘のように午後からは晴天となり作業再開。竹垣と竹箒作りを時間まで行い三時に終了となりました。自然の中で皆と少年達は、すっかり馴染んで良い仕事をしていました。



参加対象者の感想

- ・初めてやるのが色々多くあったのですごく楽しく活動に参加できたので良かったと思う
- ・これからもこういった活動にも新しい事があると思うので参加していきたいと思う
- ・作業をしている時に保護司の方たちといろいろとお喋りしながら出来た事がとても楽しかった
- ・人と接しながら何かをするという事はとても楽しく、生きて行く中で必要な活動だと思いました
- ・竹垣作りは、始めは簡単な作業だと思っていたましたが、やってみるとそんなに簡単な作業ではありませんでした
- ・今回の活動はしつかり言われた通りに出来たので良かったと思います
- ・また、この様な行事があれば自分から出たいです
- ・保護司の皆さんに良くしてもらい、自然の中で気持ち良くて、良い事だと思った
- ・途中でサボってすいませんでした

BBS会だより

太田 朝

平成二十八年六月五日に行われた神代農場の社会参加活動にBBSから二名が参加しました。前半のマス釣りでは生きた魚を釣る感覚を対象者各々楽しんでいったようで、長時間黙々と釣り続けている姿が印象的でした。後半の竹垣作りでも、枝を竹筒の間に挟み込む作業や高さを揃える作業等根気のあるものでしたが、飽きずに最後まで取り組んでおり、神代農場は対象者が主体的に取り組めるよいプログラムであると改めて感じました。

BBSとしては、対象者により身近な存在として接することが課題です。今後活動の中心を担ってくれる学生が新たに増えるよう、活動しています。





第66回 社会を

駅頭 PR 活動

平成 28 年 7 月 1 日 (金)



調布駅



狛江駅



中学生意見発表会

平成 28 年 7 月 30 日 (土)

調布市文化会館 たづくり 12 階大会議場

思いやりの輪 優しさの輪
 支えてくれる人の存在の大きさ
 自殺と社会
 音楽の力
 いのちの時間の使い方
 自他を大切にできる社会へ
 仕事も投資も感謝のしるし
 お化け社会から楽しい社会へ
 いじめのない学校へ
 変わりつつ残していく
 調布とタバコとポイ捨て ～美しい町 調布を目指して～

調布中学校	3年	内村 萌子
神代中学校	3年	辻井 穂実
第三中学校	2年	新井田れな
第七中学校	3年	本多 響
桐朋女子中学校	3年	河野いのり
第四中学校	2年	眞島 陸
明治大学付属明治中学校	3年	濃沼 葵
晃華学園中学校	3年	佐野 玲子
第八中学校	3年	小村 颯
第六中学校	2年	曾根原あげは
第五中学校	2年	伊藤 佑馬

明るくする運動

中学生サッカー教室

平成 28 年 7 月 24 日 (日)

味の素スタジアム アミノバイタルフィールド



協力 FC 東京

ハーフタイムに広報活動

平成 28 年 8 月 6 日 (土)

味の素スタジアム



推進大会とコンサート

平成 28 年 7 月 18 日 (月)

狛江市民ホール (エコルマホール)

中学生啓発標語優秀作品

あいさつが もしもの時の 防犯カメラ

第一中学校 3年 伊藤 響

心がけよう 優しい気持ち

みんなでつくろう 明るい社会

第一中学校 3年 萩平 瑞生

ひとりじゃない

優しい気持ちと伝える勇氣

人のつながり大切に

第二中学校 3年 小町 怜緒果

画面より 顔見て話そう 心の言葉

第三中学校 1年 浦川 了

守ろうよ みんなが好きな まちだから

第四中学校 2年 竹之内 宏貴

総会報告

狛江分区総会

日時 四月十一日 月曜日 午後三時
場所 狛江市役所特別会議室
十八名参加

調布分区総会

日時 四月十五日 金曜日 午後三時
場所 調布市グリーンホール 小ホール
三十七名参加

調布狛江地区総会

日時 四月二十二日 金曜日 午後四時
場所 調布市文化会館たづくり
一階むらさきホール
五十五名参加

地域別定例研修第1期の開催

研修部 隠田 慶孝

六月九日狛江市民センターにおいて、平成二十八年度第1期地域別定例研修が開催されました。

小嶋忠志主任官を講師に迎え、保護観察所を対象者に対する保護観察の説明、期間の確認、遵守事項の誓約など、各種手続を経て、我々保護司に連絡が来るという保護観察の流れについて講義を受けました。

五月に委嘱を受けたばかりの「新人保護司」の私には、研修・講義・用語・制度等、すべてが勉強であり、理解しなくてはならないものです。各活動を通じて、御指導頂きたいと思えます。

調布分区自主研修

井出 節子

九月二十日午後三時より深大寺客殿にて、三十一名の保護司が参加して二十八年度第一回自主研修が行われました。講師は深大寺住職の張堂完俊師で、師は府中刑務所で教誨師をされています。

宗教家としていかに教誨師活動をされているのか、服役している人とのやりとりなど、保護司とはまた別の活動についてわかりやすくお話ししていただきました。

保護司にとっては社会参加活動でおなじみの深大寺ですが、客殿を提供していただき、お茶の接待までいただき、感謝の念でいっぱいになりました。

狛江分区管外研修「福岡刑務所」視察

内海 貴美

九月十四日～十五日、一泊二日にて福岡刑務所へ視察研修に、十三名が参加しました。

九州最大、日本第三規模の刑務所。広大な所内を調査官の山崎様に見学案内していただきました。東京ドーム四倍の広さを持ち、現在は、一四三七名収容(定員の七五%)内、三五名が外国人。また、三六四名が暴力団関係者と聞き驚きました。

入所者の最高齢は、八六歳。親世代です。規律の中で生活し、作業に向かう姿を思うと、もう二度と入所することのないようにと願いたいです。有意義な研修を受け、さらに職務に邁進したいです。



東京保護観察所及び 更生保護施設更新会視察

六月十五日

広報部員で東京保護観察所と更生保護施設更新会を訪問し、業務の内容等についてお聞きしました。

午前十一時、東京保護観察所 幸島聡所長を訪問しました。



幸島所長から、前任の大阪保護観察所で保護司会はじめ地域の各団体事務局が区役所から出されてしまったこと、その中で市区の業務を保護司会など民間団体に委託されるようになったことなどの話があり、市区町村と保護司会の関係について考えさせられました。

午後一時三十分更新会を訪問。常務理事岩瀬道夫さんから業務の説明を受けました。更新会は、大正十五年設立の歴史ある更生保護施設です。平成六年、西早稲田再開発事業によって、早稲田大学十九号館の一角に男子成人二十人の保護施設を設け現在に至っています。こうした関係から、更新会の施設運営構想には早稲田大学における犯罪者処遇の研究に更新会が寄与することが謳われています。昨年で二十回を迎えた「早稲田大学矯正保護展」ではその運営に更新会が大きく関わって

おり、また、更新会で行われているSSTでは、早稲田大学の学生が常時参加しています。説明を受けた後、施設内を見学しました。献立表には、おいしそうな食事が準備されていました。調布狛江地区の鴨志田会長は、新宿区更生保護女性会と協力して野菜を提供されています。定員二十名に対して収容率は九〇%を超えています。大学の大きいビルの一角にあることから、保護施設の拡張が難しいのが悩みの一つとなっているそうです。再開発事業の際、更新会反対の声もありましたが、早稲田大学の時の総長が更新会の重要性を強調され、反対の方々を説得したそうです。

広報部



更生保護施設「更新会」が入居している早稲田大学西早稲田ビルディング全景、更新会は向かって左端1階から3階部分に入居しています。ホームページより。

桐友会だより

調布・狛江地区桐友会

副会長 三沢 寿

会員数は現在十八名です。高齢者で大半が病院通いをしていきますので多くは望めませんが、保護司の行事についても要請があれば桐友会も林会長をはじめ少数ですが参加し協力してきました。

桐友会々員で医師の中村先生の健康講座とその後の懇談会は地区保護司会の御協力を得て三年続けて実施しました。会員の親睦を深め、保護司会の皆様との交流の場ともなり、大変好評でした。

中村先生、保護司会の皆様、ご協力ありがとうございました。

今年度の桐友会健康講座は十一月二日に開催される予定です。

更生保護女性会だより

調布・狛江地区更生保護女性会

原 喜代子

更生保護女性会は保護司会と密に連携をとり活動を行っています。神代農場社会参加活動で私達は、食事担当をしました。いつもおいしいと言ってくれるカツカレー。保護司会の方より穫りたての野菜が提供され、更女の手により色々なメニューにかかります。作業をしながら、コミュニケーションが取れてすばらしい活動が出来たと思います。

社会を明るくする運動、愛光学園の七夕の集い、医療少年院の学習発表会等を通して共に学び高めあい共有しながら活動をしていきたいと思えます。最後に更女の研修が十月二十一日狛山実務学校へ見学に行きます。是非皆様のご参加をお待ちしております。

春の叙勲



瑞寶雙光章
桑田 和紘

受章おめでとございます

新任保護司の紹介



調布分区
隠田 慶孝

平成二十八年 五月二十五日委嘱



調布分区
鈴木 久美子

平成二十八年 九月一日委嘱



調布分区
野呂 奈津子

保護司会の今後の予定

- 十月 六日 調布分区小・中学校と保護観察所・保護司会との連絡協議会
- 十月 十三日 地域別定例研修第II期
- 十月 二十日 第七ブロック保護司組織運営連絡協議会
- 十月二十五日 調布・狛江地区管外研修 (榛名女子学園)
- 十一月二十二日 更生保護事業関係者顕彰式典
- 十一月二十九日 調布・狛江地区自主研修 (国連アジア極東犯罪防止研修所)
- 十二月 四日 調布分区福祉まつりバザー
- 十二月 十一日 深大寺社会参加活動
- 一月 十三日 調布・狛江地区保護司会新年会
- 二月 七日 地域別定例研修第三期
- 二月 調布分区自主研修

退任

- 小林 和彦 (調布分区) 平成二十八年 八月三十一日
- 杉崎 敏彦 (調布分区) 平成二十八年 八月三十一日

永年にわたるご活躍
ご苦労さまでした



あとがき

社会を明るくする運動強調月間も過ぎるころ、リオデジャネイロオリンピックも俄かに盛り上がり始め、日本人選手のオリンピック史に残る活躍には、深夜にも関わらず熱中し酷暑の夏をさらに熱く過ごしたことは記憶に新しいところです。

オリンピックが閉幕し、日本は例年の如く台風シーズンの到来となりました。毎回の様に各地での被害状況が、マスコミによって私たちに伝達され、早期の復興を祈らずにはおりません。一方、台風のもたらす恩恵は殆ど知らされることはありません。水不足の水瓶が満たされることは想像できませんが、稚苺の発育にも影響を及ぼし、まとまった雨と湿った空気が、日本独特の肉厚で旨味のある稚苺に成長するそうで、中国でも古来より日本の稚苺は重用されておりました。

マイナスマネジメントが多い事象に関しては、悪い部分が強調され、なかなかプラス面を観るといふ思考が働きません。日頃から物事を別の側面からも観る観察力が必要だと思つたこの頃です。

今号にご寄稿下さった皆様に感謝申し上げます。

林田 堯瞬

広報(編集)部員

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 部長 | 矢辺 良子 | 伊藤 知弘 |
| 副部長 | 愛甲 悦子 | 栗山 剛 |
| 副部長 | 酒井 淳 | 佐藤 亜古 |
| 書記 | 柿澤 正夫 | 須田 啓文 |
| 書記 | 濱中 佳朗 | 林田 堯瞬 |
| 会計 | 井上 喜一 | 馬部 久夫 |
| 会計 | 嶋田 弘子 | 真山 勇一 |